

京都精華大学 広報誌

木野通信

KINO PRESS.
KYOTO SEIKA UNIVERSITY

issue 67

特集

創作で革命を起こすには 竹宮恵子による講演



デジタル作画革命!?
「スタジオコロリド」を探訪
革命を追体験!

先生の肖像

NEWS&Topics

岸田 繁 客員教員 講演「音楽の背景、背景の音楽」

CONTENTS

特集

創作で革命を起こすには

4 竹宮恵子“創作で革命を起こすには”

9 講演を聞いた、斎藤 光が考えたこと。

10 デジタル作画がアニメ業界に革命を!?
「スタジオコロリド」を訪ねました。

13 革命を追体験!

14 先生の肖像

16 2015年度決算および、2016年度予算について

NEWS & Topics

18 大学ニュース

21 イベント紹介 岸田 繁 客員教員 講演
「音楽の背景、背景の音楽」

精華生たちの今

22 活躍する卒業生

23 歩みはじめた在学生

“革命の種”を育て続けて

学長 竹宮恵子

(マンガ学部ストーリーマンガコース教員/マンガ家)



今年のはじめ、私は自らの半生を綴った『少年の名はジルベール』という本を上梓しました。1970年代のマンガ界や個人的なエピソードなど、狭い世界の出来事を書いたものですが、刊行後の大きな反響に、実は私が一番びっくりしています。きっと、「自分の作品で世界を変えてみせる！」などという壮大な夢を打ち立てて悪戦苦闘していた当時の私の姿と、読者の方の若いころあるいは今が重なって、多くの方に共感していただけたのだと思います。

そんな著作の影響もありまして、さる5月、本学の名物イベントであるアセンブリーアワー講演会に招かれ、「創作で革命を起こすには」というテーマでお話をしました。私の代表作『風と木の詩』がマンガ界におけるひとつの“革命”だったとするなら、その経験をヒントにして学生たちにも革命を起こしてもらいたいと思ったのです。革命というと、何かものすごく大きなことを成し遂げなければならないように思うかもしれませんが、そんな風に構える必要はまったくありません。革命の種は、みなさんの身の回りにいくらかでも落ちていきます。大事なのは、その存在に気づいて、拾い、育てていくこと。途中で挫折しそうになっても、ネガティブな感情に流されないように踏ん張り続けられれば、いつか必ず実を結ぶ日が訪れます。

かくいう私もただいま大学改革に向けて種を育てている真っ最中で、少しずつですが、大きく育ってきました。今はちょうど、教員のみなさんに私が進みたい方向を示し、一緒に挑もうとしているところ。思わぬ方向に進みそうになったり、立ち止まらざるを得なくなったりするかもしれませんが、革命を起こすまでの道のりには困難がつきものです。それを楽しむくらいの心持ちで、前に進んでいきたいと思っています。



竹宮恵子 “創作で革命を 起こすには”

2016年5月19日、京都精華大学アセンブリーアワー講演会として、京都精華大学学長でマンガ家の竹宮恵子による講演会が行われました。題して「創作で革命を起こすには」。告知をはじめたときから大いに話題を呼び、当日も開場前から長い行列ができました。その講演内容を抜粋してお伝えします。

みなさま、こんにちは。本学で学長を務めております竹宮恵子です。本年度はじめてのアセンブリーアワーで、学長という立場の私がお話をするのはちょっと落ち着かない気分ではありませんけど、今年の1月に出した本（『少年の名はジルベール』小学館）が私の認識を越えて、大きく話題になったためにこのような機会をいただくことになりました。この本というのは、みなさんよくご存知の「トキワ荘」にもつながる

話ですね。トキワ荘は、手塚治虫先生、石ノ森章太郎先生、赤塚不二夫先生、藤子不二雄先生など、私からすれば憧れの先生方が若いころに切磋琢磨した共同住宅のことですけど、その青春記をたくさん読みまして、私もこんな経験がしてみたいと思いました。それで、20歳のときに徳島から東京に出て、萩尾望都さんと出会って、「大泉サロン」を結成することになりました。自分にとって奇跡的な出会いであり、非常に勉強になった時代ですので、今でも私の中に鮮明に残っております。その当時のことを書くことで、若い学生たちにとっても励みになるかもしれない、そうなればうれしなと思いが、本としてまとめあげました。

実は、私が2000年に京都精華大学へ赴任してきて、最初は年の離れた学生が怖かったです。どう接していいかわからないし、私より新しい知識をもっているだろうと思われる学生にちょっと怖れを抱いていました。しかし、マンガを通じて話をするうちに、彼らも私がマンガを目指していた20代のころとほとんど変わらない悩みをもっているんだと気づいて、心からホッとしました。今日お集まりくださったみなさんは、学生から私と同世代の方まで、さまざまであろうと思いますが、日常から離れてこの講演を聞こうと考え

てくださったみなさんのお気持ちをしっかりと受け止めてお話をしたいと思います。

私が小学生くらいのころは、マンガに夢中になっていた人がすでにたくさんいました。マンガを読むから本を読まなくなるんだとか、そういう風に言われていまして、学校にマンガを持つていくとすぐに取り上げられるような時代でした。私はもともと絵が好きで、マンガも描くようになったのですが、分厚い講談社の文学全集なんかの間ですぐ隠せるようにして、折りたたんだら半紙を使ったりしてマンガを描いていました。文学の本を読んでいる分には先生からも親からも怒られなかったんですけどね。そのころに、「ぼくはハヤブサ・純」という、ちよっと少年探偵団のような話のマンガを描いてました。1話につき16ページから32ページくらいのシリーズもので、98話まで描いていましたが、結局、ただだともう恥ずかしくて、すべて燃やしてしまいました。その理由は、石ノ森章太郎先生の『マンガ家入門』を読んだこと。このとき、人に見せられるようなマンガを描きたい、はつきりとマンガ家になろうと決めたことをまざまざと覚えております。

その後、まんが専門誌『COM』という雑誌が出版された『COM』という雑誌があったのですが、その

て、『アラオの墓』の連載を終えた後、その次に『風と木の詩』の連載をはじめることができました。

『風と木の詩』は、その後、すぐたくさんの方に支持される作品になったのですが、それは私にとっても驚くことでした。どうしてそのようになったのか。ある人に聞くと、明快に説明してくれました。「あの時期のあなたの作品は、飛び立とう、飛翔しようとする離陸の美しさもあって」と。美しいかどうかは置いておくとしても(笑)、たしかに、私は飛びたいという気持ちだけは強もっていました。飛び立つということだけは堅く決めていて、飛べるかどうかなんてことは考えていませんでした。飛べるかどうかを考える前に、飛ばなくてはならないんです。鳥にとつて、そんなことは当たり前なんですね。

だから、状況を変えようと思うのであれば、変えるために必要なことをとにかく次々に行うだけなんです。変えようと思っただけになってしまふのが、一番いけないんじゃないかと私は思います。飛べるかどうかじゃなく、ただ、もう飛ぶということだけを考えると、それを果たしていくだけなんです。たとえどんな状況であろうとも、です。野生の鳥というのは、いじらしいほどに生きること、飛ぶということ

に夢中です。私もそういういじらしさを決して失うまいと心に決めていきます。飛べなくなれば死んでしまうわけですから。大陸から日本に渡ってくる渡り鳥のように、はるか先が見えない大海原であっても、必ず飛んでいけると信じています。

今回、「創作で革命を起こすには」というタイトルで話をさせていたいただきましたが、私にとって「革命」という言葉は特別なものです。「革命」という言葉の印象からすれば、とても遠いことのように、大胆不敵なことであるかのように思われるかもしれませんが、私にとっては、たとえば、卵を割るといふひとつの行為をとって、人によってその方法は実にさまざまなんです。どういう方法で卵を割るのか、それをじっくり考えてみれば、そのやり方をとるというだけの理由がそれぞれの人にあるんですね。自分だけのその方法を考え、他人に説明して、教え伝えることもできると思います。当事者にとつては何気なく意識せずにやってきたことでも、そうして教えたり、習ったりすることに比べて意識的に伝えることができるようになります。

とても日常的で、瑣末なたとえかもしれませんが、それが、実は革命につながるっていくこともあるんだらうと私は思います。つまり、革命というのはどこにでもあるのだけ

ど、その種を拾って大きく育てられるかどうかは、人の側に委ねられて、その人次第だということ。最初はほんとに瑣末な、小さなことかもしれませんが、そこに光を当てて、これが問題じゃないのかということ、強く押し出していくわけですね。見つけた小さなきっかけを磨き上げて、問題としてしっかり育てていくのは、人間の作用によることなんです。そこに多くの人が介在することによって、広がっていくこともあるんだと思います。

学生たちと話をしていると、もう目新しいものなんて創れないんじゃないかという声もよく聞きます。だけど私は、よく授業の中で、テレビのCMを4コママンガにするという課題を出しますけど、みなさんがよく知っているCMを4コマにするだけでも、全員が必ず違うものを描きます。その多様性ですね。そういった違いをそれぞれの人がもっているわけです。目新しいものだけが革命につながっているわけじゃないと思います。

何かを成し遂げるためには、当たり前のことですが、とにかく一途でなくてはなりません。一途であることが恥ずかしいという人もいらつしやると思います。夢中になることは子どもっぽいと言いますが、けれど、これはもう圧倒的に普遍的な

今年の2月のことである。小学館から『少年の名はジルベール』が出版された。著者は、京都精華大学学長竹宮恵子。内容は彼女の自伝である。

一気に読むことができた。すぐに思いついたのは、これはNHKの朝ドラになる、ということ。そう考えた方は他にもいるようで、SNS上でも朝ドラ原作の可能性がいくつもつぶやかれていた。たぶん、それは、この自伝が、「少女マンガ革命」内側／前夜の過程を、お金はないが情熱はある若い人たちの苦しくも明るいドラマとして描かれているからだろう。つまり、近年はまれになった良質の「教養小説」的読みものであったからなのだ。

竹宮さんはそこで、大学を中退し東京で大泉サロンを形成する前後の1970年春から、1976年2月に『風と木の詩』が『週刊少女コミック』に連載開始されるまでの自分とその周囲を描いている。社会動向的にいえば、大阪での万国博覧会の開始(70年3月)から、石油ショック(73年10月)を経て、ロッキード事件の発覚(76年2月)までの時代だ。社会も激動し、少女マンガ界も大きく動いていたことがよくわかる。今回のアセンブリアワーで、竹宮さんは、この自伝が対象とする当時のことを話された。「自立」「革命前夜」「飛翔」といったキーワードに

講演を聞いた、斎藤光が考えたこと。

竹宮恵子学長によるアセンブリアワーを
実際に聞いていたのが斎藤光先生。
竹宮さんの著作と講演を受けて
どんなことを思ったのか。
斎藤先生にご寄稿いただきました。

斎藤 光

京都精華大学ポピュラーカルチャー学部 教員。最近では京都のカフェの歴史を調査中。共著者に『昭和後期の科学思想史』など。



沿って資料をスライドでうつしなごらの講演。進行役の平尾早悠佳さんとのやり取りも絶妙であった。ところで「革命」ということでは、少年の／との性をひとつのテーマにした『風と木の詩』が、少女マンガ雑誌に載ったというのは、いくつもの文脈で「革命」に値するだろう。少しあげておく。

まず、少女マンガでの性という文脈。「性」を少女マンガで扱うことがタブーであったなかで、男性同士の性愛を「絵」と「物語」として描くということ。それがいかに破壊的なことであったか。当時少女だった読者に聞いたことがある。電車の中で買った『週刊少女コミック』を開いて読むのがひどくドキドキすること、見つかるかと大変と思ったということ。ただ、講演でも話されていたが、突然、少年の／との性が登場したわけではなかったようだ。竹宮さんは、連載前も少年を美しく描く「習作」を雑誌掲載したり、いろいろな機会を利用して、『風と木の詩』を予告もしていたようだ。革命の成功には、それ相応の準備が必要でもある。

もうひとつの文脈は、女性の社会的地位というのか。講演で印象深かったのは、原稿料の話で、70年代前半、少女マンガ家の原稿料は、少年マンガ家には比べかなり低いものだったらしい。これは、はっきりとは

話されなかったが、『風と木の詩』が広く注目されるということは、まわりまわって、原稿料における不平等解消へとつながったのではないかと。

竹宮さん関連で、ひとつ何となく感じる点がある。それは「竹宮恵子」の評価の問題だ。いわゆる24年組では、70年代末からかなり長い間、萩尾望都がより高く評価されていたのではないかと。しかし、これは個人的実感に過ぎないが、90年代から今世紀に入るとつれて、「竹宮恵子」の評価が高まってきたと思う。そのことは、マンガ界における性の扱いの大きな変動や、BLマンガなどの登場と相即的である、と思われるのだがどうであろうか。

このことは、革命の意味や内実と関係している。マンガ表現上の革命が重要なのか、テーマにおける革命が重要なのか、ということになるか。ただ、ここで細かく検討したり答えを出すわけにはいかない。むしろ、こういう方向で考えることはできないか、というきっかけとして少し触れておいた。

重要な革命には、その革命を個体識別するために、固有な名が付けられている。竹宮さんが創作でもたらした革命は、なに革命なのだろうか。「ジルベール革命」という単語も浮かぶが、どうしたものだろう。

ことで、千年変わることがないと言ってもいいようなことです。革命というのは、ごく日常のことなんです。もしかしら、今から経験するちょっとしたことが、みなさんの革命になるかもしれない。それをわくわくすることとして受け止めてもらえたら、私としてはうれしいです。今日の帰り道、小さな革命の種を見つけてことになるかもしれません。その革命のポテンシャルを高めていって、それが銀河にまでなるかどうかは、みなさん次第だと思います。

どうも今日はありがとうございました。

竹宮恵子

1950年徳島県生まれ。1968年、『週刊マーガレット』の新人賞に佳作入選した「リンゴの罪」でデビュー。代表作『風と木の詩』『地球(テラ)へ…』で小学館漫画賞を受賞。ともにアニメ化を果たす。2000年、京都精華大学教員となり、2014年から京都精華大学学長を務める。2014年秋、紫綬褒章を受章。





スタジオコロリドのオフィスは、個室を設けずパーテーションも低い。「監督にも話しかけやすい雰囲気なので制作の効率も上がります」（柴田）

坂本拓馬
京都精華大学
マンガ学部
アニメーション学科 教員



デジタル作画が アニメ業界に革命を!? 「スタジオコロリド」 を訪ねました。

昨年12月、京都精華大学アニメーション学科の主催で「デジタル作画セミナー&セルアニメ新時代研究部会」が開かれました。アニメ制作の“革命”とも言うべき、デジタル作画の現状と可能性が話し合われたその場で、ひと際存在感を放っていたのがスタジオコロリドです。コロリドは、パズル&ドラゴンズやマクドナルドのテレビCMなどを制作し、京都精華大学出身の石田祐康監督（『陽なたのアオシグレ』など）も所属する今注目のアニメーション制作会社。そんなスタジオのナマの制作環境を知るべく、アニメーション学科の坂本拓馬先生とともにコロリドを訪ねました。

これまでのアニメ制作現場は…
「夢をもってアニメ業界で働きはじめても、多くの若手が離れてしまうのが現状。結局は、やる気と根性がある人だけが残っていく」と危惧する坂本先生。そうした課題を解決すべく、デジタル化を通して会社組織としての強化に挑戦しているのがス



2015年12月5日、京都精華大学黎明館で開かれた「デジタル作画セミナー&セルアニメ新時代研究部会」。200名の定員に対してぎっしりの聴衆が集まり、デジタル作画への関心の高さがうかがい知れた。

スタジオコロリドです。所属する社員の平均年齢は二十代半ば。若手が経験を積みやすい環境であることも伺えます。東京・天王洲アイルにあるスタジオで出迎えてくれたのは、京都精華大学卒業生でもある間崎 溪さんと柴田佳奈さんです。
スタジオコロリドが、制作環境の中心に取り入れている「デジタル作画」の話の前に、まずはデジタル以前、紙を使った旧来の制作では何が問題だったのかをお聞きしました。

1秒間に8〜24枚ほどの動画を必要とするアニメでは、素材が完成するまでに膨大な作業時間が求められる。一枚の絵に数時間、あるいは数日かかることも。「それでも映像で見ると一瞬しか映りません。紙に向き合う姿勢は格好よくても、努力した分だけ報われているのとも言われる」と間崎さん。さらに、「アニメのスタッフはフリーランスで仕事をしている人が多く、作品毎にスタジオに集めて制作をして、終われば解散という流れでした」と続けます。従来の制作工程ではひとつのスタジオに能力やノウハウが蓄積しにくいために、組織としてのアニメスタジオの成長を停滞させてしま

紙を使うことの影響は、作画をしない制作進行担当にも及びます。柴田さんは「アニメーション制作の現場ではかなりの数の作画スタッフを要するため、それぞれの事務所や自宅などあちこちを回って素材を集め、夜中に会社に戻ってから次の業務をさばらなければならない。どんなに一生懸命に働いてもスケジュールが後ろ倒しになり、昼夜逆転の生活が当たり前だったと思います」と、その過酷さを語りました。

デジタル作画は 一体、何を变えたのか

では、デジタル作画で変わることは何か。作業場所を選ばないことや手軽さはもちろんですが、それ以外

スタジオコロリド 作画・演出
2011年 マンガ学部
アニメーション学科卒
間崎 溪

スタジオコロリド 設定制作
2012年 マンガ学部
アニメーション学科卒
柴田佳奈



にも大きなメリットがある」と間崎さんは言います。それは、「一枚一枚が映像の素材であることを実感しながら作業できること」。紙による制作では、どうしても一枚ごとに静止画としての意識が生まれるため、最終的に映像になることを忘れがちになるのだそう。お

間崎 溪

2011年4月、A-1 Picturesに入社。2012年秋にスタジオコロリドへ。「ある程度の制限やオーダーがあるなかで、自分の個性を出した作品づくりにチャレンジすることが楽しい。将来はデジタル作画の技術で、地元の京都にいなから仕事ができるようになりたいですね。いまに生きる学生時代の経験は、グループ制作、グループ発表の授業でみんなを取りまとめたこと。

柴田佳奈

2012年4月、垂細亜堂に入社。大学時代から親交のあった間崎さんの誘いで、2015年6月にスタジオコロリドへ。「制作進行の魅力は最初から最後まで作品に携われること。クリエイターの特徴を活かす役割を担ってきたい」。大学3年生で、学内イベントのオープニングアニメを作った際、教授のススメで制作進行を初めて担当したことがターニングポイントに。

のずと映像の粗さや動きのズレにもつながってしまいます。録画機器や視聴メディアの発達によって、作品を何度も見直したり、コマ送りで細部を確認することが容易になった現代、一面に求められるクオリティを維持するには紙では限界があります。映像への意識をもちながら作画できる、デジタル作画であれば、より完成度の高い作品を目指せるのです。

柴田さんも「データでやり取りができるので、余計な待ち時間も必要なく、家でも仕事をする事ができます」と、仕事環境の改善を実感しているそう。良い作品を作るためには、まず良い労働環境があるべきというスタジオコロリド経営陣の考え

が強く反映されています。その考えは、社内でも表れています。チャットワークにも表れています。クラウド上でデータをやり取りすることで仕事の効率上がるだけではなく、社員それぞれが制作における進行状況を共有できるという利点もチームで作品をつくっている実感や喜びが社員のモチベーションを上げ、組織を高めていきます。

「一般企業における当たり前前のごとに追いついていないのがアニメ業界。日々の仕事で精いっぱいになって、未来へ向けた働き方に戦略的な投資をする経営者が少ないなか、スタジオコロリドは一步も二歩も先を行っている」と坂本先生も驚いていました。

BOOK

柴谷篤弘
『われらが内なる隠蔽』

世界的に著名な構造生物学者である鬼才・柴谷篤弘ならではの、大胆かつ率直な現代日本批判と言うには、完全に言葉が不足している。ぼくは柴谷と出会った40代に「自分探し」を終えた。たぶん、ぼくの生涯で最良の偶然だったと思う。ぼくのもの見方が抛る地点が如何に狭苦しいものだったか、それこそ「革命」的にわからせてくれたのだ。N

MUSIC

J・S・バッハ
『ゴルトベルク変奏曲』

音楽についてはまったくの素人ですが、それまでバロック音楽って機械仕掛けみたいと感じていたところに、初めてグレン・グールドによる演奏を聴いて本当に素朴に衝撃を受けたので。一人暮らしの下宿で「子守唄がわりにちょうどいいや」と深夜にCDを再生したものだから、途中でワールドのうめき声が混ざったところでビビりました。M

BOOK

エドガー・スノー
『中国の赤い星』

もはや日本では社会主義、共産主義は歴史的な脈の中でしか語られなくなったのかもしれない。本書は、現代中国の人々にとって、それをぎりぎりの同時代性を保ちつつ参照できる格好の「革命」の書だと思うのだが、今、中国に本書の読者は存在するのだろうか。アメリカ人がリアルに社会主義を語っていた最近のテレビを見て、いつとき頭の中が混乱してしまった。N

BOOK

筒井康隆
『到着』

むかし筒井康隆のSF短編を多く読んだなかで、「幻想の未来」のような壮大なヴィジョンを描いた作品もいまだに好きなのですが、太陽や地球といった星々が潰れるときの音を「ベチャッ」と表現し、5行目に「今まで、一団となって落ちていたのだ」というオチで終わったこの作品には、小学生ながら革命的な驚愕を味わったので。M

BOOK

ダニエル・ペナック
『学校の悲しみ』

学校を表現する言葉としての「悲しみ」は、これまでに経験したことがないような充足感をぼくにもたらした。学校の数多ある「問題」は、そう、「悲しみ」を引き起こすひきがねにすぎないのだ。そして、「悲しみ」は劣等生だけがもつものではなく、学校という近代の発明物に身を投じる者すべてに平等に与えられる。「悲しみ」を経験することは、学校を「革命的」的にのりこえることに他ならない。N

MOVIE

『2001年宇宙の旅』

MGM配給による1968年公開の映画作品。物語内容そのものにはさほど面白みはないものの、有名な月と地球と太陽が重なるオープニングのショットはもちろん、個人的にはモンスターとなった人工知能に突き飛ばされた宇宙飛行士が、もがきながら宇宙船から遠ざかっていくショットが完全な無音だったことに革命を感じました。M

BOOK

高橋和巳
『わが解体』

1960年代後半から1970年代はじめ、京都には、「革命」という言葉が普通名詞として通用していた。大学という明らかに閉ざされた空間が存在した。ぼくもそこにいたに違いないが、そのとき、その空間が何であったのかを語ることは難しい。本書は、それを意図したわけではないながら、もの見事にある一面を語り尽くしている。著者の比類なき才能に抛るものだと思う。N

SCIENCE

オイラーの等式

文系人間としては、数はいくまで便宜的に作られた抽象的な目印でしようぐらいにしが理解できないのですが、自然対数の底と虚数単位と円周率を組み合わせて、ここまで単純な等式が成立するという事実を目のあたりにすると、「数学上最も美しい定理」どころか、もはや「魔術？」とつぶやくほかにいくらい革命的に感じます。M

BOOK

ガッサン・ハージ
『ホワイト・ネーション』

オーストラリアが日本社会よりはるかに居心地が良いという実感を持ちながらも、なおかつヨーロッパ起源の白人の中に見てしまう不安の源は何か、今から20年以上前にぼくは考えていた。右派と見做される歴史家ジェフリー・ブレイニーは「距離の暴虐」という言葉で、ヨーロッパから切り離された絶望感にそれを見た。本書は、「植民地パラノイア」という処方箋をオーストラリアの白人に突きつけた。多文化主義社会への平和「革命」がもたらした避けがたい副作用とでも言うように。N

ART

エドゥアール・マネ
『オランピア』

1865年のサロン展に出品された絵画作品。それが引き起こしたスキャンダルは、この作品を目にした「品行方正」な紳士たちがみな、そこに描かれている女性が娼婦であることを「分かった」がゆえに起こったということもさることながら、構図そのものはティツィアーノらの古典作品と何ら変わらないという点で革命的。M

坂本拓馬先生!
デジタル作画の
未来をどう
考えますか。

昔は機材やソフトウェアが今ほど揃っていなかったため、デジタル作画はとても手を出しにくい存在でした。しかし数年前から海外から色々なソフトウェアが入ってきたことで、急速に広まりはじめているのが現在の状況です。「スタジオコロリド」の他にも、ポケットモンスターを制作する「OLM」や、2009年からデジタル作画に取り組んできた「旭プロダクション」は先駆的な存在で、技術をどんどん確立させています。アニメーターでは、タツノコプロにいたりよーちもさんが有名ですね。もちろん機材を揃えるコスト面の弊害や、上の世代がデジタル化に否定的といったケースもまだまだあるので、業界全体として完全に移行するのはまだ先でしょう。しかし2年ほど前から、制作会社やアニメーターを目指す人向けに開かれるデジタル作画のフォーラムでは数百人規模の会場が毎回満員になるなど、大きな変革期に来ていることは間違いありません。ちなみにOLMはデジタル作画のスキルを今年の新卒採用資格として掲げていました。そういった風向きを考慮して、今後はアニメーション学科でもカリキュラムに組み込む予定で、デジタル作画をできるかどうかの仕事の幅やチャンスを広げていこうと思います。



坂本拓馬

京都精華大学 マンガ学部 アニメーション学科 教員。CGIディレクター・演出。2001年スタジオ4℃入社。07年『鉄コン筋クリート』で「第7回 映像技術賞」「第11回 日本映画テレビ技術大賞」を受賞。多くのOVA・劇場作品でCGI監督、演出を務める。



さらなる進化のために
ここまでデジタル作画のメリットばかりを聞いてきましたが、問題点はないのでしょうか。ふたりにさらにツツコンで尋ねてみると、返ってきたのは「外部との連携」「上の世代からの学び」というキーワードでした。「業界全体でいえば、まだまだ紙で描いている人が主流なので、仕事を頼める人が狭まってしまおうというのは、デジタル作画が抱える問題でもあります。それでも、業界全体がデジタル化していくよう、スタジオコロリドでたくさん作品をつくって、優秀な若いクリエイターの名前もつと世に出るようになりたいですね」(柴田)。

ている可能性もあります。もつと上の世代から助言をもらったりチャレンジしたりできれば、さらに進化できると思います。(岡崎)。
業界の変化を先取りするようなコロリドの現場と卒業生の活躍を目の当たりにした坂本先生、「岡崎くんとは数年前にとある作品制作で関わったことがありましたが、アニメ業界や作画の未来についてすごく考えていることから、良い環境で仕事ができることが伝わってきます。精華大学でもデジタル作画にさらに力を入れるとともに、その裏付けとなる作画の理論もきっちり教えていきたい」と言います。教育や人材育成の観点からも、デジタル変革期を迎えたアニメ業界にとって京都精華大学の動きは大きな影響があるもの。次代のアニメーションづくりは、もうはじまっているのです。



©YKK Corporation

YKK Presents『FASTENING DAYS 2』

YKKの企業ブランドを伝えるためのショートアニメで、2014年に公開された『FASTENING DAYS』に続く第2弾。10分間の作品の全工程を岡崎さん、柴田さんのふたりがメインスタッフとして関わっている。特に、アクション満載の後半は見ごたえ十分。

井上有一

16年
(2000.4.1 ~ 2016.3.31)

人文学部

「800日間世界一周」、これがわたしの夢です。中学生のころ、ヴェルヌの小説を読み、おおいに感動して面白かったわたしは、「スピード優先のこのファストな時代、今度は小説とは違ってゆったりと800日をかけて世界を西回りで一周して、夜が一回少なくなることを実際に体験してやろう」と思ったのです。その夢をかえたいです。大学院在学や気候変動の条約会議などで滞在した馴染みのところ、あるいは気に入ったところでは、1ヵ月、2ヵ月と腰を落ち着けて、いろんなことをやってみたいです。それぞれの土地の文化に触れ、多くを学び、京都精華大学でのことも思い出しつつあれやこれやと考えてみたいです。文字どおり、本物のスローな旅！にします。

筒井洋一

13年
(2003.4.1 ~ 2016.3.31)

人文学部

津堅信之

7年
(2009.4.1 ~ 2016.3.31)

マンガ学部アニメーションコース

ひさうちみちお

3年
(2013.4.1 ~ 2016.3.31)

マンガ学部ギャグマンガコース

私がストーリーマンガコースの非常勤をしてくるころでした。まだ学内でお酒が飲めるころで私は授業後に学生たちと飲酒してました。その日は自転車で来たのですが酔っぱらって調子に乗ってたのですが自転車で帰ろうとしてパチが当たりました。深泥池の横の道に続く長い坂から下の病院の前の道へ落ちてしまったのです。救急車で第二日赤に運ばれて1ヵ月ほど入院しました。落ちた自転車は壊れてそのままになってるはずですが。私は退院したらその病院に自転車を引き取りに行きました。ところが自転車はありません。壊れて粗大ゴミになった自転車ですからこちらはの方が良い。と思っていたら…。私の母はそのころ九条山の介護施設にいて、私は月1くらいで会いに行っていたのですが、地下鉄の蹴上駅を出て施設まで登って行く途中の道にあったのです。誰が何の為に…。実話です。

呉 宏明

40年
(1976.4.1 ~ 2016.3.31)

人文学部

京都精華大学で教えて、40年になります。今年の3月に定年退職しました。精華大学での授業、卒論ゼミ、神戸のフィールドワーク、北海道と台湾のプログラム、英字新聞「セイカタイムズ」の発行、食事会、留学生との交流等、いろいろ楽しい思い出が、懐かしく、夢のように頭をよぎります。現在は東京に住んでおりますが、これから何をしたらよいか考え中です。とりえず、月1回、神戸において関西在住の華僑の聞き書きを記録する研究会を続けております。現在6号まで「記録集」を発行し、10号をめざしています。卒業生の皆様には、どこかでお会いできることを楽しみにしております。

梶川よ志子

32年
(1984.4.1 ~ 2016.3.31)

人文学部

北脇徳子

29年
(1987.4.1 ~ 2016.3.31)

人文学部

私の一番印象深い思い出は、1989年9月に行われた「洋上セミナー」である。大型客船のサンフラワー号を借り切って、種子島、対馬へと船旅をした。人文学部の初年度の学生、最後の短期大学の英語英文科の2年生の学生をはじめ、人文学部の教員や事務局の職員たちを含めた多くの参加者が一体となって、夏休み前のプログラムの準備から、実行に全力を尽くした。船上での講義やセミナー、議論もにぎわい、これからの学部への夢と期待にあふれていた。今一度、人文学部もあの創設の頃の若々しさを取り戻してほしいと願っている。

松本ヒデオ

27年
(1989.4.1 ~ 2016.3.31)

芸術学部陶芸コース

市村富美夫

26年
(1990.4.1 ~ 2016.3.31)

芸術学部テキスタイルコース

平成 27 年度 京都精華大学を ご退職された方々

これまで大学の構成員として
セイカを彩り、共に時間を過ごした
教職員の皆様をご紹介します。
ご退職されても、今後ともセイカを
よろしくをお願いします。

森本 勇

45年11ヵ月
(1970.5.7 ~ 2016.3.31)

芸術学部洋画コース

最後の1年間は病気のため休職させていただき、皆様にご迷惑をおかけいたしました。短大として発足した3年目より、定年になるまで長く勤めることができ、また絵を描くことを続けられたことは、洋画分野の学生諸君及び大学の皆様のおかげであると感謝しております。定年後は病気の治療と好きな本や音楽に囲まれた生活をしたいと思っておりますが、体力的にどれほど可能なか不安な気もします。

磯垣節子

41年 9ヵ月
(1974.7.1 ~ 2016.3.31)

事務局
(退職時は障がい学生支援室)

在職中は、学生課、就職課、障がい学生支援室等で、主に学生支援業務が中心でした。多くの学生と出会い、ある学生は学園祭で懸命にがんばっていて、また、就職後、ステップアップし、第一線で活躍する頼もしい姿。そして、一番長く担当した障がい学生支援室では、さまざまな障がいのある学生、支援学生や関係者と話し合ったこと等、楽しいことも悩んだことも忘れられない思い出です。最近、庭に花を咲かせようと草抜きに汗したり、久しぶりにお菓子教室へ通い、長年、作っていなかったケーキ作りに新鮮さを感じています！また、障がい学生支援で知り合った方から退職を機に声かけをいただいたので、今後も出来る範囲で障がい支援に関わっていこうと考えています。



先生の肖像 松本ヒデオ

京都精華大学の陶芸コースを創設3期から支え、芸術学部長も務められた松本先生。滋賀県の湖西にある先生のアトリエを訪ねました。

70歳からの後半の人生をどうやって生きていけるか。今はそのためのサバティカル。テーマは「遊び」です。「遊戯」「遊化」といったりもしますが、仏教でいう精神的な束縛から離れた状態ですね。競馬場に行くとかではないですよ(笑)。例えば、アトリエで朝から夕方までぼーっとしていることもそうだし、薪を片付けるだけでもひとつの所作ですから、退屈かもしれないけど、そこは遊びの心があるんじゃないかなと。

まだ大学を離れて数ヵ月ですが、学生に戻ったような気分が毎日を楽しんでいます。健康でいられることに感謝をしつつ、これからゆとりとした時間を過ごしたいですね。その延長線上で、面白い作品がつくれたらラッキーかな、と思っっています。

学生との授業はいつも戦いだと思ってましたが、精華の学生というのは、今も昔もみんな本当に「太鼓の叩きがいがある」学生たちばかり。こちらがやればやるほど成長してくるのは、教育者としての楽しい部分でした。やっぱり思い出深いのは、大きなテントの下、新入生歓迎会なんかで学生たちと交流を深めたいくつかの場面ですね。学生、職員といった立場の隔てなく、思い思いの言葉を口にしあうことで、切磋琢磨していくような関係性があつたことを今でも思い出します。

1951年、京都生まれ。東京農工大学卒業。京都市立芸術大学大学院修了。1988年より京都精華大学美術学部造形学科陶芸コース専任講師。98年に同助教授、2001年に同教授、16年に退職。無類のスター・ウォーズ好き。

賃借対照表

(単位:円)

資 産 の 部			
科 目	本年度末	前年度末	増 減
固定資産	26,871,859,271	27,262,963,625	△ 391,104,354
有形固定資産	17,963,922,890	18,411,637,750	△ 447,714,860
土地	4,227,871,496	4,227,871,496	0
建物	11,368,724,299	11,752,319,987	△ 383,595,688
構築物	268,098,052	287,683,237	△ 19,585,185
教育研究用機器備品	966,915,020	1,023,248,932	△ 56,333,912
管理用機器備品	29,834,643	25,796,357	4,038,286
図書	1,102,240,439	1,094,351,839	7,888,600
車両	238,941	365,902	△ 126,961
特定資産	8,205,499,000	7,839,582,000	365,917,000
第3号基本金引当特定資産	150,000,000	150,000,000	0
退職給与引当特定資産	1,353,977,000	1,345,366,000	8,611,000
減価償却引当特定資産	6,701,522,000	6,344,216,000	357,306,000
その他の固定資産	702,437,381	1,011,743,875	△ 309,306,494
電話加入権	3,633,424	3,633,424	0
ソフトウェア	61,417,145	60,963,944	453,201
有価証券	400,000,000	687,558,000	△ 287,558,000
長期貸付金	232,571,492	254,773,187	△ 22,201,695
保証金	4,815,320	4,815,320	0
流動資産	2,596,865,825	2,270,740,832	326,124,993
現金預金	2,131,998,550	1,959,660,517	172,338,033
未収入金	386,313,376	224,710,442	161,602,934
貯蔵品	10,902,323	7,283,705	3,618,618
短期貸付金	30,014,088	30,421,372	△ 407,284
立替金	3,854,820	5,703,028	△ 1,848,208
前払金	9,499,238	18,007,844	△ 8,508,606
仮払金	24,283,430	24,953,924	△ 670,494
資産の部合計	29,468,725,096	29,533,704,457	△ 64,979,361

(単位:円)

負 債 の 部			
科 目	本年度末	前年度末	増 減
固定負債	2,972,157,752	3,172,708,617	△ 200,550,865
長期借入金	1,602,516,000	1,812,524,000	△ 210,008,000
退職給与引当金	1,369,641,752	1,360,184,617	9,457,135
流動負債	1,986,360,624	1,984,540,138	1,820,486
短期借入金	210,008,000	249,008,000	△ 39,000,000
未払金	161,397,685	86,976,191	74,421,494
前受金	1,404,414,116	1,431,721,752	△ 27,307,636
預り金	210,540,823	216,834,195	△ 6,293,372
負債の部合計	4,958,518,376	5,157,248,755	△ 198,730,379
純 資 産 の 部			
科 目	本年度末	前年度末	増 減
基本金	29,023,679,036	28,569,069,188	454,609,848
第1号基本金	28,406,679,036	27,952,069,188	454,609,848
第3号基本金	150,000,000	150,000,000	0
第4号基本金	467,000,000	467,000,000	0
繰越収支差額	△ 4,513,472,316	△ 4,192,613,486	△ 320,858,830
翌年度繰越収支差額	△ 4,513,472,316	△ 4,192,613,486	△ 320,858,830
純資産の部合計	24,510,206,720	24,376,455,702	133,751,018
負債及び純資産の部合計	29,468,725,096	29,533,704,457	△ 64,979,361

2015年度決算および、2016年度予算について

2015年度決算について

2015年度の事業活動収入は前年度から5千万円増加し、62億8千万円でした。このうち学生納付金は78.3%を占めています。

この中から学内施設の諸改修工事や情報通信ネットワークの整備等で1億5千万円の施設関係支出を行いました。また、コンピュータ教室の設備更新、その他経常的な備品の充実等で1億3千万円の設備関係支出を行いました。さらに、当年度は文部科学省からの補助を受け、対峰館や清風館に新たに授業用装置を配備する等し、大規模な施設設備の拡充も行いました。これらにより、基本財産取得に関わる金額を示す基本金組入額は4億5千万円となりました。事業活動支出(人件費・経費等)は61億5千万円で、当年度の基本金組入前収支差額は1億3千万円の収入超過となりました。しか

しながら、基本金組入後の当年度収支差額は3億2千万円の支出超過となり、この結果、翌年度繰越収支差額は支出超過額が45億1千万円に増加しました。

支払資金(現金・預金)は前年比1億7千万円増の21億3千万円となりました。但し、固定資産の減価償却や除却による減少額が取得額を上回ったこと等により、大学の資産全体としては6千万円が減少しました。また、借入金の返済等により、負債は2億円が減少しました。これらによって、純資産は1億3千万円増加しました。

以上の結果、純資産構成比率は0.7%上昇し、83.2%となりました。

2016年度予算について

事業活動収支予算書

(単位:円)

		科 目	金 額	
教育活動収支	事業活動収入の部	学生生徒等納付金	4,765,621,000	
		手数料	38,750,000	
		寄付金	33,200,000	
		経常費等補助金	447,642,000	
		付随事業収入	269,776,000	
	雑収入	56,476,000		
	教育活動収入計	5,611,465,000		
	事業活動支出の部	人件費	3,086,614,000	
		教育研究経費	1,937,910,000	
		管理経費	605,060,000	
徴収不能額等		9,660,000		
教育活動支出計		5,639,244,000		
教育活動収支差額	△ 27,779,000			
教育活動外収支	事業活動収入の部	受取利息・配当金	79,847,000	
		教育活動外収入計	79,847,000	
		事業活動支出の部	借入金等利息	32,861,000
			教育活動外支出計	32,861,000
			教育活動外収支差額	46,986,000
	経常収支差額	19,207,000		
	特別収支	事業活動収入の部	資産売却差額	1,400,000
			その他の特別収入	100,000
			特別収入計	1,500,000
			事業活動支出の部	資産処分差額
特別支出計				17,000,000
特別収支差額		△ 15,500,000		
(予備費)		0		
基本金組入前当年度収支差額		3,707,000		
基本金組入額合計		△ 311,619,000		
当年度収支差額		△ 307,912,000		
前年度繰越収支差額	△ 4,513,472,316			
翌年度繰越収支差額	△ 4,821,384,316			
(参考)				
事業活動収入計	5,692,812,000			
事業活動支出計	5,689,105,000			

2016年度は経常支出予算の他に、学内LAN環境の基盤整備や防災関係設備のリニューアルのための予算を計上しています。また、建築からかなりの年数が経つ5号館について、外壁改修と周辺環境整備を行うための予算も確保しました。

それらの結果、単年度の事業活動収支は基本財産取得に関わる基本金組入等を含めると3億1千万円の支出超過予算となっています(基本金組入前の収支は収入超過を維持)。一方で、支払資金(現金・預金)は2015年度末から比べると1年間で2億2千万円の増加を見込んでいます。

資金収支予算書

(単位:円)

収 入 の 部	
科 目	金 額
学生生徒等納付金収入	4,765,621,000
手数料収入	38,750,000
寄付金収入	32,000,000
補助金収入	447,642,000
資産売却収入	200,000,000
付随事業・収益事業収入	269,776,000
受取利息・配当金収入	79,847,000
雑収入	56,476,000
前受金収入	1,275,441,000
その他の収入	1,015,943,376
資金収入調整勘定	△ 1,504,414,116
前年度繰越支払資金	2,131,998,550
収入の部合計	8,809,080,810
支 出 の 部	
科 目	金 額
人件費支出	3,070,314,000
教育研究経費支出	1,308,782,000
管理経費支出	561,856,000
借入金等利息支出	32,861,000
借入金等返済支出	210,008,000
施設関係支出	92,897,000
設備関係支出	106,414,000
資産運用支出	1,000,000,000
その他の支出	181,622,685
(予備費)	0
資金支出調整勘定	△ 109,500,000
翌年度繰越支払資金	2,353,826,125
支出の部合計	8,809,080,810

事業活動収支計算書

(単位:円)

		科 目	金 額	
教育活動収支	事業活動収入の部	学生生徒等納付金	4,916,045,100	
		手数料	39,454,124	
		寄付金	28,930,652	
		経常費等補助金	490,194,844	
		国庫補助金	489,744,286	
	地方公共団体補助金	450,558		
	付随事業収入	413,872,860		
	雑収入	255,676,481		
	教育活動収入計	6,144,174,061		
	事業活動支出の部	人件費	3,352,252,734	
教育研究経費		2,151,148,613		
管理経費		572,471,948		
徴収不能額等		13,640,700		
教育活動支出計		6,089,513,995		
教育活動収支差額	54,660,066			
教育活動外収支	事業活動収入の部	受取利息・配当金	82,006,896	
		教育活動外収入計	82,006,896	
		事業活動支出の部	借入金等利息	37,455,600
			教育活動外支出計	37,455,600
			教育活動外収支差額	44,551,296
	経常収支差額	99,211,362		
	特別収支	事業活動収入の部	資産売却差額	24,023,000
			その他の特別収入	29,194,912
			特別収入計	53,217,912
			事業活動支出の部	資産処分差額
特別支出計				18,678,256
特別収支差額		34,539,656		
(予備費)		0		
基本金組入前当年度収支差額		133,751,018		
基本金組入額合計		△ 454,609,848		
当年度収支差額		△ 320,858,830		
前年度繰越収支差額	△ 4,192,613,486			
翌年度繰越収支差額	△ 4,513,472,316			
(参考)				
事業活動収入計	6,279,398,869			
事業活動支出計	6,145,647,851			

資金収支計算書

(単位:円)

収 入 の 部	
科 目	金 額
学生生徒等納付金収入	4,916,045,100
手数料収入	39,454,124
寄付金収入	29,160,652
補助金収入	518,248,844
国庫補助金収入	517,798,286
地方公共団体補助金収入	450,558
資産売却収入	311,852,649
付随事業・収益事業収入	413,872,860
受取利息・配当金収入	82,006,896
雑収入	255,676,481
借入金等収入	0
前受金収入	1,404,414,116
その他の収入	644,571,423
資金収入調整勘定	△ 1,818,035,128
前年度繰越支払資金	1,959,660,517
収入の部合計	8,756,928,534
支 出 の 部	
科 目	金 額
人件費支出	3,342,795,599
教育研究経費支出	1,480,574,456
管理経費支出	533,293,011
借入金等利息支出	37,455,600
借入金等返済支出	249,008,000
施設関係支出	154,754,776
設備関係支出	129,394,270
資産運用支出	763,836,000
その他の支出	107,167,527
資金支出調整勘定	△ 173,349,255
翌年度繰越支払資金	2,131,998,550
支出の部合計	8,756,928,534

4月から12人の教員が新しく就任しました

2016年度から新任した12人の教員をご紹介します。
 笹口 数(デザイン学部イラストコース)
 妹島和世(デザイン学部 客員教員)
 フランク・サラマ(デザイン学部 客員教員)
 谷川充博(ポピュラーカルチャー学部音楽コース)
 小北光浩(ポピュラーカルチャー学部ファッションコース)
 岸田 繁(ポピュラーカルチャー学部 客員教員)
 加美甲多(人文学部 文学専攻)
 恵阪友紀子(人文学部 文学専攻)
 柳沢菜々(人文学部 歴史専攻)
 矢野美沙子(人文学部 歴史専攻)
 兼松佳宏(人文学部 共通教員)
 矢作俊彦(人文学部 客員教員)



NEWS & Topics

大学ニュース

在学生や卒業生の活躍、大学の取り組みなど、
 京都精華大学の最新情報を紹介します。

京都市動物園と連携協力に関する協定書を締結

本学は京都市動物園と連携協力に関する協定書を締結しました。これまで、同園リニューアルの一環でつくられた京都の里山が体験できる施設「京都の森」の整備や維持に人文学部 板倉豊ゼミの学生が関わるなどして協力関係を築いてきましたが、この度の協定により、長期のインターシップをはじめ、連携をさらに深めることになります。



「ガーデンアートのストリート」で立体造形コース卒業生の作品が受賞

「うめきたフェスティバル2016」のイベントのひとつとして、本学をはじめ関西の芸術系大学で学ぶ学生たちの作品をグランフロント大阪の「せせらぎのみち」屋外会場に展示する、「ガーデンアートのストリート」。同イベントにおいて、芸術学部立体造形コース卒業生(出展時4年生) 上田要さんの作品「力」が養豊賞を受賞しました。



本学はダイバーシティ推進に取り組んでいくことを宣言しました

3月30日、本学ホームページ上において、人間を尊重し、人間を大切にすることを教育の基本理念とし、世界人権宣言を重んじる大学として、キャンパスのダイバーシティ推進に取り組んでいくことを宣言しました。外国人や障がいのある人、性的少数者など、さまざまなバックグラウンドをもつ人々への差別をなくし、助け合いの精神、差別を許さない倫理観を育む取り組みを、これからもたゆまず進めていきます。現在は、学籍簿の名前や性別を規定に基づき変更可能としたり、教職員の就業規則において配偶者定義を同性婚などのパートナーまで拡大したりする対応を行っています。

洋画専門分野卒業生 芸術研究科博士後期課程修了生が「第20回シドニー・ビエンナーレ」に参加

オーストラリアで6月5日まで開催されていた「第20回シドニー・ビエンナーレ」に、美術学部洋画専攻(現・芸術学部洋画コース)卒業生 塩田千春さん、そして大学院芸術研究科博士後期課程修了生 中村裕太さんが参加。塩田さんは新作「浅い眠り(Conscious Sleep)」の発表、中村さんは作品《日本陶片地図》を出展しました。



中村裕太《日本陶片地図》2015年、撮影：表恒匡
 塩田千春「流れる水」2009年、発電所美術館、富山、撮影：サニー・マンク

2017年4月より新たな全学共通プログラムの導入や改組を行います。

多種多様な専門領域で学ぶすべての学生たちに開かれた、新しい全学共通プログラム「SEEK」(シーク)の導入、自分の専門領域の選択を可能とした芸術学部再編、そして、マンガ学部の新コースとして新しい時代に向き合う人材を育成する「新世代マンガコース」の新設。2017年4月からスタートする、新たな姿となった本学にぜひご注目ください。



「熊本地震からの復興のためにわたしたちに何ができるのか、勉強会」を開催しました

4月14日より発生した熊本地震。その被害状況を目の当たりにし、自分に何かできることはないかと考えている方たちへ、京都にいるわたしたちができることは何かをともに考える機会になればと願い、復興支援のための勉強会を開催。京都府災害ボランティア支援センターより講師をお招きし、お話をいただきました。



ポピュラーカルチャー学部客員教員に人気ロックバンド「くるり」岸田繁氏が就任

ロックバンド「くるり」のボーカル、ギターである岸田 繁氏が、ポピュラーカルチャー学部の客員教員として就任しました。「くるり」の奏でる楽曲の大半を手がけ、多くの人の心を掴む岸田氏が、学生たちにどのような学びを与えるのか。第1回目の講義レポートは、21pからのイベント紹介で掲載しております。



大学基準協会による大学評価ならびに認証評価で大学基準に適合していると認定されました

本学は公益財団法人大学基準協会による大学評価ならびに認証評価を受け、「評価の結果、貴大学は本協会の大学基準に適合していると認定する。認定の期間は2023年3月31日までとする。」との認定を受けました。結果および報告書の詳細については、本学ホームページ上で公開しています。



京都国際マンガミュージアムが 第20回手塚治虫文化賞特別賞を受賞

本学と京都市が共同事業として開設し、その運営を本学が担う京都国際マンガミュージアム。今年



11月に開館10周年を迎え、この間に博物館と図書館両面からマンガ文化に貢献したことが評価され、第20回手塚治虫文化賞特別賞を受賞しました。副賞の100万円は、熊本地震復興支援の一環として全額を寄附しました。

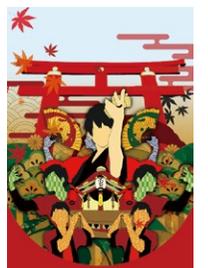
学校法人京都精華学園と 教育連携協定を締結

このたび本学は学校法人京都精華学園(京都精華学園中学・高校)と教育連携に関する協定書を締結しました。今後、中学・高校の生徒を対象とした大学による学習機会の提供や、双方の教育の質向上に関する交流など、活発な教育連携を推進していきます。



アニメーションコース3年生の作品が 「第14回 京都学生祭典」で メインビジュアル大賞を受賞

学生の方で京都を盛り上げようと、2003年度からはじまった学生主体によるイベント「京都学生祭典」。14年目を迎えた「第14回 京都学生祭典」において、マンガ学部アニメーションコース3年生、渡辺 茜さんの作品がメインビジュアル大賞を受賞しました。今後は同イベントのPRポスターやパンフレットなどで活用される予定です。



精華町と連携協力に関する協定書を 締結しました

本学と京都府相楽郡精華町との間で連携協力に関する協定締結式を実施しました。同町と本学とはこれまでマンガやイラストの領域でさまざまな取り組みを行っており、このたびの協定により



連携をさらに深めることになります。今後も本学の専門分野を生かしながら、双方の発展をめざしていきたいと考えています。

京都市営地下鉄各駅構内にて マンガ学部学生の作品が 貼り出され、表彰式が行われました

京都市交通局と本学との連携事業として京都市営地下鉄をPRする取り組み「地下鉄



に乗る4コママンガを読む」を実施。地下鉄・市バス応援キャラクター「太秦萌(うずまさもえ)」たちが登場する4コママンガのコンテストが開催され、表彰式が行われました。受賞作品は京都市営地下鉄各駅構内にて貼り出されました。

岩倉こひつじ保育園と アニメーション学科が ワークショップを実施

本学との連携協定を結んでいる「岩倉こひつじ保育園」の園児を対象に、アニメーション学科教員である



大橋雅央の指導のもと、ワークショップを行いました。園児たちはかんたんなアニメーションの制作に挑戦。また、デッサンの鹿などの見学も行い、充実した内容となりました。

イベント紹介

ポピュラーカルチャー学部客員教員 岸田繁 「音楽の背景、背景の音楽」

4月よりポピュラーカルチャー学部の客員教員に就任された、岸田繁氏。

本学において行った第一回目となる講義の様子を紹介しします。

4月18日。客員教員に就任した「くるり」のボーカル、ギターとして活躍される岸田繁氏の初講義が行われました。講義内容は、教員が話し、問いかける内容を考え、各々が答えを見出す演習型で、さまざまな場所・シチュエーションで流れる(または流されている)音楽を想像し、その選曲にはどのような意図や目的があるのかを推察するというもの。「歯科医院に訪れ、別の患者の歯が削られている音を耳にしながら待合

室にいる自分」「恋人、または憧れの人と過ごす時間」「和のしつらえがなされたお蕎麦屋さん」といったさまざまなイメージを浮かべさせ、それに合った音楽、その音楽が合う意味を考えるよう促した。また、岸田氏は、お店や施設など、さまざまな場所ですべての音楽が「なぜ流されているのか」を意識的に考えてほしいと学生たちに伝えられました。その理由として、岸田氏曰く「どんな形であれ音楽に関わる仕事をしていくうえでは、聴く、という行為を深く掘り下げていく必要があります。そしてそれはたくさん聴いたという量よりも、音楽を聴いて感動する、客観的になって良さを見つけるという、質、が問われます。聴いた音楽の良さをひとつでも多く見つけた人が自分の肥やしにできる。人気の高い音楽だけではなく、まだ他の

人が発見していない類や、一般的にツマラナイといわれている音楽からでも、とにかく良さを見つけてください。この作業はすぐくためることじゃないかと思いません。」

講義の終盤には「あー、緊張して汗かいたわ」と朗らかに口に出された岸田氏。今後も数回にわたる講義が予定されており、第一人者が教える学びに、学生たちの大きな成長が期待されます。

<p>○京都精華大学が主催するイベントを紹介。一般の方も聴講、参加が可能です。</p>	<p>デザインの可能性「空間論演習1」 ゲスト講師がデザインをめぐる対談や講演を行う。</p>	<p>Fashioning Identity 演劇や写真などのさまざまな領域で活躍する4組の作家の作品を展示。</p>
<p>【日時】 7月8日(金) 18時～</p> <p>【場所】 京都精華大学 風光館3階 T-331</p> <p>【問い合わせ先】 京都精華大学 デザイン学部 建築学科 E-mail: architec@yoto-seika.ac.jp</p>	<p>●新井清一(建築家/京都精華大学デザイン学部建築学科教員) デザイン学部 建築学科</p>	<p>アセンブリーアワー講演会 藤田貴大「言い足りないさの中で、もがいている」 大学創立の1968年から続く公開トークイベント。あらゆるジャンルから一流のゲストを迎え、時代をつくる「生の声」にふれる。</p>
<p>【日時】 7月9日(火) 18時～19時30分</p> <p>【場所】 京都精華大学 清風館1階 C-102</p> <p>【問い合わせ先】 京都精華大学 教務課 TEL: 075-702-5244</p>	<p>芸術学部 客員教員 谷川 暉マンスリー・レクチャー 「美術史を美学する」 「美術史を美学する」をテーマに谷川 暉(芸術学部客員教員)によるマン・スリー・レクチャーを行う。</p>	<p>【日時】 7月8日(金) 19時00分～20時30分</p> <p>【場所】 京都精華大学 左愛館 409a</p> <p>【問い合わせ先】 京都精華大学 社会連携センター TEL: 075-702-5263</p>
<p>【日時】 7月9日(水) 18時～</p> <p>【場所】 京都精華大学 風光館3階 T-331</p> <p>【問い合わせ先】 京都精華大学 デザイン学部 建築学科 E-mail: architec@yoto-seika.ac.jp</p>	<p>江口寿史展 KING OF POP 京都編 マンガ家・江口寿史氏の38年間の画業を振り返る大規模な展覧会。</p>	<p>【日時】 7月23日(土)、24日(日)、 9月18日(日)、12月18日(日) 各日10時～17時</p> <p>【場所】 京都国際マンガミュージアム 京都精華大学</p> <p>【問い合わせ先】 京都精華大学 入試課 TEL: 0120-07507</p>
<p>デザイン学部 石川九楊 連続「公開」講座「河東碧梧桐 石川九楊(デザイン学部 客員教員) による連続公開講座。</p>	<p>【日時】 7月9日(水) 18時～</p> <p>【場所】 京都国際マンガミュージアム TEL: 075-254-7414</p>	<p>【日時】 7月23日(土)、24日(日)、 9月18日(日)、12月18日(日) 各日10時～17時</p> <p>【場所】 京都国際マンガミュージアム 京都精華大学</p> <p>【問い合わせ先】 京都精華大学 入試課 TEL: 0120-07507</p>

ご支援くださるみなさまへ ～ご寄付のお願い～

様々な支援に関して、ご寄付のご協力をお願いしております。

「学生奨学金制度への支援」、「学生生活への支援」、「文化振興活動への支援」、「国際交流活動の支援」、「教育・研究設備整備事業への支援」より寄付用途を選んでいただき、みなさまのご意向にかなう運用をしています。お申し込みは、銀行窓口、もしくは、インターネット上でのクレジットカード決済にてご寄付いただけます。この寄付金は、文部科学省から「特定公益増進法人であることの証明書」の交付を受けており、税金控除の優遇措置を受けることができます。詳細につきましては寄付募集 Web サイト、リーフレットをご覧ください。

●寄付募集 Web サイト

www.kyoto-seika.ac.jp/donate

●お問い合わせ

京都精華大学企画室寄付募集担当

TEL 075-702-5201 FAX /075-702-5391

E-mail:kikaku@kyoto-seika.ac.jp

卒業生の方へ

●京都精華大学の情報は Facebook でも

お知らせしています。

www.facebook.com/KyotoSeikaUniversity

●「木野通信」送付先住所の変更は、 企画室・木野会事務局までご連絡 ください。

E-mail:kinokai@kyoto-seika.ac.jp

FAX:075-702-5391

京都精華大学

人文学部	[総合人文学科] 文学専攻 歴史専攻 社会専攻
ポピュラー カルチャー学部	[ポピュラーカルチャー学科] 音楽コース ファッションコース
芸術学部	[造形学科] 洋画コース 日本画コース 立体造形コース [素材表現学科] 陶芸コース テキスタイルコース [メディア造形学科] 版画コース 映像コース
デザイン学部	[イラスト学科] イラストコース [ビジュアルデザイン学科] グラフィックデザインコース デジタルクリエイションコース [プロダクトデザイン学科] プロダクトコミュニケーションコース ライフクリエイションコース [建築学科] 建築コース
マンガ学部	[マンガ学科] カートゥーンコース ストーリーマンガコース マンガプロデュースコース ギャグマンガコース キャラクターデザインコース [アニメーション学科] アニメーションコース
大学院	芸術研究科 デザイン研究科 マンガ研究科 人文学研究科

木野通信

KINO PRESS.

木野通信 第67号
2016年6月30日発行

京都精華大学 入試広報部 広報課
〒606-8588 京都市左京区岩倉木野町137
TEL075-702-5197 www.kyoto-seika.ac.jp